

第3章 計画地の現況把握

3-1. 計画地の位置

- ・長久手市は、平成24年(2012)1月4日に市制施行した市であり、東は豊田市、西は名古屋市、南は日進市、北は瀬戸市、尾張旭市に隣接し、東西約8km、南北約4km、面積は21.55km²、人口56,432人(平成28年(2016)12月1日現在)である。
- ・計画地は、JR名古屋駅東方約15km、東名高速道路・名古屋瀬戸道路日進JCTの北北西約1.8km、リニモ長久手古戦場駅北西約150mの広域アクセス性に優れた位置にある。
- ・計画地周辺には、愛知県立芸術大学、愛知県立大学、愛知県立農業大学校研究科、愛知医科大学といった大学等、豊田中央研究所、トヨタ博物館、愛知県農業総合試験場、愛知県陶磁美術館等の研究文化施設が立地し、また愛知県口論義運動公園、猪高緑地、愛・地球博記念公園(モリコロパーク)等の大規模公園が集積している。



図1 計画地周辺航空写真



図2 計画地位置図

3-2. 計画地及び周辺の土地利用

1) 計画地周辺の土地利用

- ・計画地の都市計画道路長久手古戦場駅前通り線（幅員 22m）を挟んだりリモ長久手古戦場駅北側（計画地東側）一帯は、長久手中央土地区画整理事業（施行期間：平成 22 年度～平成 31 年度）が施行中であり、大型商業施設（計画延べ床面積約 134,000 m²、計画駐車台数約 2,600 台）の進出により、長久手市の新たな商業地となる。
- ・リモ長久手古戦場駅の駅前の一角には、リモテラス公益施設の建設を計画中であり、古戦場公園とのアクセスの強化が望まれている。
- ・計画地周辺の西側から北側にかけては、長湫東部及び長湫中部土地区画整理事業によって整備された住宅地（第一種低層住居専用地域）となっている。

2) 計画地の土地利用

・現状の用途区分

- ・計画地は、主として東側の都市計画公園部（東側ゾーン）、中央北側から南に国指定史跡（一部無指定の市有地の飛び地有り）、北西の市有地（西側ゾーン）から構成され、これに古戦場公園南側道路交差点部の古戦場モニュメント部（国指定史跡区域と市有地）が加わる。

・計画地内の現状施設配置

- ・東側ゾーンは、駐車場・和弓場・郷土資料室・庭園が整備されている。
- ・西側ゾーンは、北側が土舗装の駐車場が配置され、南側は緩斜面の芝生地として整備されている。

（第 2 章 図 3 計画地内現況主要施設配置図参照）

・計画地の構成

- ・古戦場公園再整備基本計画対象地は、すべて市有地で、モニュメント部（準住居地域）を除く区域が第一種低層住居専用地域となっており、①古戦場公園地区と②古戦場モニュメント地区(南側道路交差点部) の 2 つの用地で構成されている。
- ・①は、都市計画公園用地、国指定史跡、その他市有地で、②は、国指定史跡区域、その他市有地で構成されている。
- ・これらとは別に、北西端部に歩行者専用道路用地（市有地、面積 150 m²）の一部が計画範囲となる。

（図 1 公図区分図参照）

3) 都市公園の考察

- ・計画地は、第一種低層住居専用地域であることから住環境に配慮し、古戦場公園全体を都市公園に位置づける等を検討し、施設については、公園に必要な教養施設等として整備することを考える。

4) 計画地の用地区分

- ・計画対象地は、池田家子孫等からの土地買収等を経て、現在、全域が長久手市の市有地となっており、①古戦場公園部と②古戦場モニュメント部(古戦場公園南側道路交差点部)の2つの用地に分かれ、①は、公園用地、国指定史跡地、西側市有地、その他市有地(第1種低層住居専用地域)で、②は、国指定史跡地、その他市有地で構成されている。

表1 ①古戦場公園部 (32,203.97 m²)

番号	用地区分	面積
1	都市計画公園	11,330.57 m ²
2	国指定史跡地	16,572.62 m ²
3	西側市有地	3,087.78 m ²
4	その他市有地	1,213.00 m ²

表2 ②古戦場モニュメント部 (576 m²)

番号	用地区分	面積
1	国指定史跡地	323 m ² (307 m ² 、16 m ²)
2	その他市有地	253 m ²

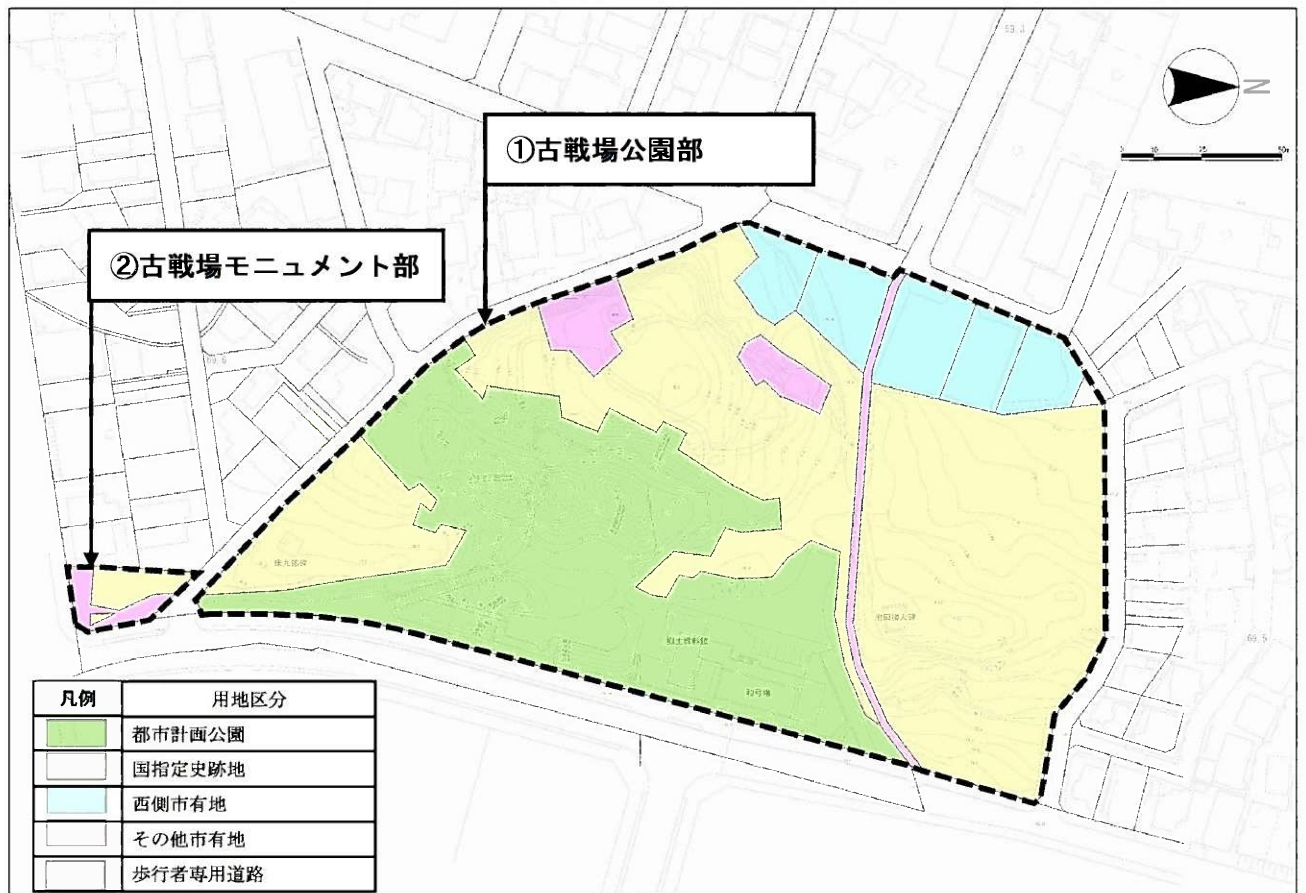


図 3 公園区分図

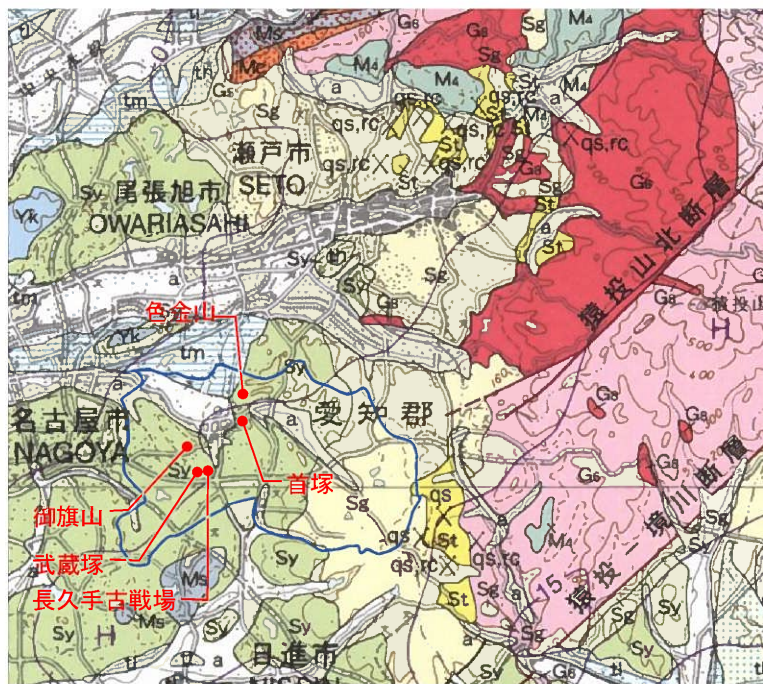
3-3. 計画地の環境

1) 計画地の地形

- ・長久手市は、尾張丘陵と尾張平野が接する地点に位置するため、その地形は複雑で、河川に沿って広がる平地に、起伏に富んだ丘陵が入り組んだ地形となっており、全体に、南東に高く西北に低い地形で、南東部の最高点の標高約 184m、西北部の最低点で標高約 43mとなっている。
- ・計画地は、香流川の南側に位置し、北西に伸びる中央丘陵の一部にある。
- ・最高点は、計画地中央部西寄りの標高 76.8m、最低点は、計画地既存スロープ下の 63.4m となっており、公園区域等は地形が改変されているが、国指定史跡地は合戦当時の地形が現存している。(標高は昭和 59 年野外活動施設設計図による)

2) 計画地の地質

- ・長久手市の地質は、中・古生代の岩盤に中新世以後の粘土層・砂礫層・夾炭層がのっている。長久手では、岩木(亜炭)の採掘は、近世から始まり、明治中期から昭和にかけて活況を呈したが、昭和 30 年代には廃絶した。
- ・計画地の地質は、土台となる基盤岩類の上に堆積した鮮新統の地層(瀬戸層群)の矢田川累層の最下部の主に中礫層からなる砂礫層を主体とし、砂層とシルト層を挟み、ときに凝灰岩層を含む水野砂礫相西部に位置するため、礫が少なく砂が多くなり、細礫層やシルト層を含む砂質の層が多い。



長久手市域

図 4 計画地周辺地質図
国立研究開発法人 産業技術総合研究所 / 地質調査総合センター地質 NAVI より抜粋

瀬戸層群 Seto Group	No.1	矢田川層(日進部層、高針部層及び猪高部層) Yadagawa Formation (Nisshin, Takabari and Idaka Members)	Sy	泥、砂及び礫 Mud, sand and gravel
		土岐砂礫層及び矢田川層(藤岡部層) Toki Sand and Gravel Formation and Yadagawa Formation (Fujioka Member)	Sg	砂礫、泥を伴う Sand and gravel with mud
	No.2	土岐陶土層及び瀬戸陶土層 Tokiguchi and Seto Porcelain Clay Formations	St	砂及び泥、礫を伴う(亜炭層を挟む) Sand and mud with gravel, intercalating lignite beds

3) 計画地の植生

- ・長久手市の丘陵地帯の植生は、地質が砂礫層を含む風化の激しい地質であり、表面は酸性の貧栄養土に覆われていたため、瘦地に強く、近世まで窯業燃料として利用価値の高い松が丘陵を覆っていた。
- ・しかし、松山は保水力が弱く、松にかかった雨水が田畑に流入すると土地が痩せ収量が減少するため、明和年間（1764～1772）以降、松林から雑木林への転換が図られ、溜池の背後は砂留林として立入りを禁止したため、松と照葉樹の混在する雑木林となっていた。
- ・計画地が属する中央丘陵の植生は、太平洋戦争期の人為的な伐採と昭和34年（1959）の伊勢湾台風により大きな打撃を受けたため、現在の植生は、人為的なものを含め、ほとんどがそれ以降に形成されたものである。

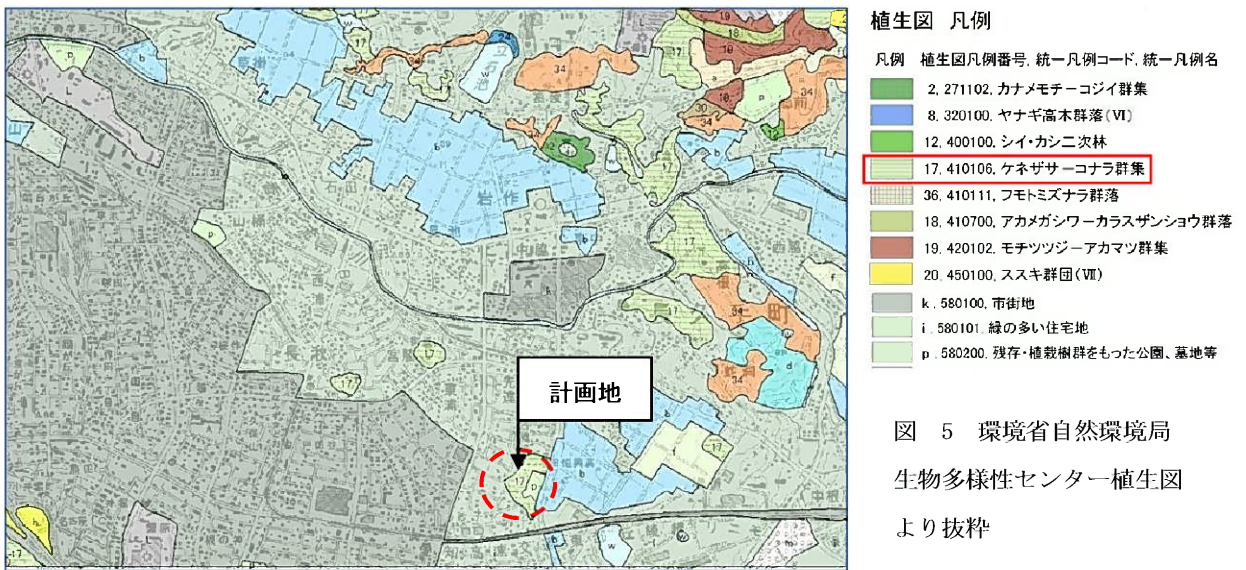


図 5 環境省自然環境局
生物多様性センター植生図
より抜粋

※ケネザサーコナラ群集とは、ヤブツバキクラス域代償植生区分中の群集であり、コナラが優占し、リュウブ、アセビ、ツルアリドシ、コジイ等で識別される落葉広葉樹二次林。主に標高約 50～200mの三河山地辺縁、尾張丘陵に広く分布する。カナメモチーコジイ群集の代償植生として位置づけられ、アベマキーコナラ群集とはアベマキを欠き、アカマツが混生することがあり、リュウブ、アセビ、コジイ等のカナメモチーコジイ群集の識別種を欠くことで区分したが、アベマキーコナラ群集との相違は明瞭ではない。高木層、亜高木層にはコナラが優占する他、アカマツ、リュウブ、アラカシ、ソヨゴ、ヤマザクラ等が混生し、低木層にはヒサカキ、ヤブツバキ、サカキ、アセビ、モチツツジ、ネジキ等が生育する。草本層は時にネザサが優占し、ツルアリドシ、テイカカズラ、ヒイラギ、シシガシラ、ベニシダ等が生育する。

4) 計画地の景観



リニモ長久手古戦場駅からの古戦場公園東側全景

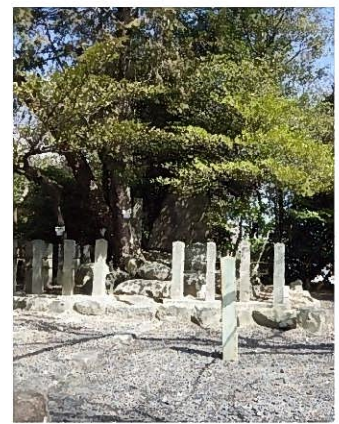


古戦場モニュメント部

※史跡の本質的価値
を構成する要素
勝入塚・庄九郎塚
地形・眺望



勝入塚



庄九郎塚



国指定史跡地内景観



国指定史跡地内景観

※史跡の周辺環境
を構成する要素



記念碑景観



古戦場公園南側エンタランス景観



古戦場公園南端部から公園全景眺望



東側道路沿い古戦場南東側景観



和弓場景観



東側道路沿い古戦場東側石垣景観



縮景（庭園）



縮景（庭園）から東方向への眺望



東西連絡園路から駐車場及び郷土資料室眺望



庭園から郷土資料室眺望



北西街角より西側ゾーン眺望



西側ゾーン南側より西駐車場眺望